

私達が小さい時に唄った「浦島太郎」「もしもし亀よ」「桃太郎」など、唱歌の殆どは作詩者が、たしか石原和太郎という人だと聞きました……。

大きく作りたる雪像醜し  
花火師のみが知る現代の花火

マウントアルバートにはじめて横さんが登った時に  
いてきたビッケルが、何十年かあとに登った人がもつて  
きて、今アメリカの博物館にあるという事です。  
ベテガリ岳の頂上には、登った人の名詞を入れた空籠  
があります。日高の山が好きで山間の分教場で一生を終  
えたO先生が、何十年目かに登った感激の記録を見たこ  
とがあります。

羊蹄山頂上の小屋の壁は登山者の名前前で埋まっていま  
す。  
摩周湖展望台の近くの白樺の幹にナイフで名前を刻ん  
でいる少年を見たことがあります。

名 一 原 有 徳



カット 佐藤哲夫



カット 国井 澄

雑 草 平 川 勇

この頃、庭に出るのが楽しみの一つになった。子供達は「年のせいだ」とひやかすが、それ程の年でもないともキになる。  
花も雑草も区別つかない庭には、野菊の群れの中からタンポポが精一杯背のびして首をもたげてる。そこらは又、老犬の手頃な午睡の場所にもなり、みじめに若芽は折れ伏されてしまう。それでも時期になれば結構、それぞれに花を咲かせる。  
春の日、雑草を抜きとり、土くれをくだく私は、背一杯に仕事を背負っていながら仕事と時間を忘れている。けれどもなんとか理屈をつけ先々とのぼしてきた面倒な課題はいやでも時期が来れば芽を出しはじめる。  
こんな具合だから、いよいよとなれば大変、北国の春の訪れに似て急ピッチだ。  
今日も又、陽差しを背中一杯にうけて私の芽に春を上げる。

油絵具と洋画材料

水彩、油 額縁 各種  
写真、賞状

練習用油絵具 1組 ¥ 300 480 600  
函付材料一式セット ¥ 1,500 1,650  
1,900~4,300

別寸法調製承ります。

札幌十字街

富貴堂

TEL ③195番  
振替小樽 317番

ホルベイン

## 小さい回想

本郷新

私が初めて札幌で展覧会を開いたのは、十八歳の時で、会場は●の五階だったか三階だったか忘れたが、Kという同じ年頃の青年との二人油絵展であった。むさくるしい若者が●で展覧会をしたのだから、今から思えば、●もよく会場を与えてくれたものと思うが、油絵展は当時としては催物の前衛であったのだろう。絵は蘭島の海岸にテントを張って毎日画いた二十点ばかりの小品であった。風でとんできた砂が絵の具にまじって、どの絵もザラついていたのを思い出す。五点程親せき先輩などの同情買上げがあって嬉しかった。いい気になって専門家を志さし、翌春上京した。大正十四年のことである。

こんど三十八年振り、初めての個展を同じ●で開くことになったが、十八歳の頃の方が、自信も、うぬぼれも、強かったように思われる。



カット 久守昭義

仕事が一段落する頃の一時期にいつも決心？ する事は、次々やる時はもっと……”というのですが、結局は相変らずの作品となって、それにつれて会場への出入は益々小さくなって……”という事の連続ですが、寒い、そして長いふぶきの冬が明けて、一夜の間に若葉と共に百花咲きそう。六月初めに本展の開かれるのは、せめてもの救いです。この自然の息吹きは、会場で自分自身の作品から受けたやり場のない暗い気持ちに、ゆとりと明日への希望を与えてくれるからです。

豊かな資源と「冬」に培われた北海道各地の工芸（いわゆる民芸を含めて）が本展を舞台に一堂に会することはきつと、日本の近代工芸即ち北海道工芸となるに違いないと思う。

それにつけても思い出すことは、師の芳武茂介先生（前産業工芸試験所意匠部長）がいわれた「現代の世界的なクラフトデザインのほとんどは北欧のフィンランド、スウェーデンから出ている。それに相応するものが北海道から出ないのはおかしい。」というお言葉で、先生の渡欧のうえ、実地に見聞されたことからの結語だけにいろいろと参考になることです。



## 北国の工芸

折原久左衛門

カット 竹内 豊

夏山は呼ぶ！  
 完全な装備は登山靴から..  
 ビムラム・ナーゲル・スキー靴各種  
**三浦靴店**  
 サッポロ南1西8 TEL 3-901